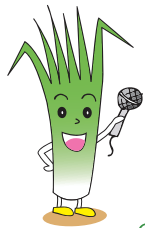


第3話 『結崎ネブカ』農家訪問 <生産部会会長 宇野正増氏>



優れた性格の『結崎ネブカ』、それなのに、いつの間にか忘れ去られ、作られなくなり“幻のネギ”と言われるまでになったのでしょうか？
また、復活への経緯・生産における苦労など、結崎ネブカ生産部会の宇野正増会長にお聞きしました。

Q. 結崎で昔から作られていたネギがなぜ作られなくなったのですか？

戦後しばらくはこの農家でたくさん作っていました。やわらかくて甘くておいしいからね。しかし、『結崎ネブカ』は折れやすく傷みやすいうえ、見栄えがわるくて日持ちもしないので、市場流通には適さなかったんです。それで、いつの間にか、現在薬味に使われているような、折れにくくて扱いやすい、日持ちもするネギに取って変わられてしまい、『結崎ネブカ』はほとんど作られなくなっていったんです。

Q. 平成 14 年からの町おこし事業が復活のきっかけに？

町おこし事業の会合の中で「昔は『結崎ネブカ』というおいしいネギがあったそうだ…もう種はなくなってしまったのかな…」という話ができました。それならずっとうちの畑で自家用として作っていたので、次の会合に「盃一杯分の種」を持っていったんです。そこから生産者を増やし現在にいたっています。

Q. 出荷するとき気をつけていることは？

自家用では見た目や多少の傷は気にしませんが、市場へ出荷するには、傷んだところがないか、汚れはないか、また調理される方の手に渡るまでの間に傷んでしまわないかとても気をつかいます。はじめにもお話したとおり『結崎ネブカ』はやわらかいのが長所でもあります、傷みやすく扱いにくい、他の野菜に比べてもたいへん手間がかかります。

Q. 今年の『結崎ネブカ』の生育はいかがですか？

この夏は大変な暑さと雨不足で、なかなか大きくなりず気をもみましたが、10月下旬からはようやく涼しくなって、出荷量も増えてきました。また、これからがおいしくなる季節です。スーパーの店頭や飲食店でもっとお手にとっていただける機会も増えてくると思います。

年によっては、病気や害虫に悩まされることもありますが、農家は何歳になっても毎年一年生のつもりで天候や農作物より一から勉強させてもらっています。

Q. 生産部会長としてのご苦労は？

『結崎ネブカ』の栽培には、繊細で手間がかかるうえ、栽培条件に合う畑も限られることから、生産量がなかなか増やせないのが悩みです。しかし近年は、若い人も加わり徐々に部会員は増えており、また関係機関の支援で試食会を開いたり、見本市に出展したり、今年5月には「地域ブランド商標」に登録されるなど、さまざまな取り組みで部会全体に活気が出ていて嬉しく思っています。

『結崎ネブカ』は大和の国の人に古くから親しまれてきた食味・栄養価ともに高い野菜です。これからの寒い季節に、私たちが心をこめて育てた『結崎ネブカ』で心身ともに温まっていたら幸いです。



宇野会長とネブカ畑にて

『結崎ネブカ』年表

■室町時代	翁の能面と一束のネギが天から降ってくる
■江戸時代	ネギの産地として広く認知され有名となる ～・～・～・～・～・～・～・～・～・～
■平成 14 年度	町商工会主催の町おこし事業はじまる
■平成 15 年度	『結崎ネブカ』のタネが町内の農家から再発見 マスコットキャラクター「ネッピー」が誕生
■平成 16 年度	3 名で栽培開始。栽培面積 2.5 a
■平成 17 年度	大和の伝統野菜に認定 栽培面積 15 a
■平成 18 年度	「結崎ネブカ生産部会」発足 生産者 7 名 栽培面積 35 a
■平成 19 年度	生産者 10 名 栽培面積 40 a
■平成 20 年度	農林水産省「農林水産物・食品地域ブランド化支援事業」に採択され、本格的なブランド化の取り組みがはじまる 生産者 10 名 栽培面積 75 a
■平成 21 年度	県内の料飲店のオーナーやシェフ、量販店のバイヤーらを招待して試食会を開催 (於：ホテル日航奈良) 生産者 12 名 栽培面積 85 a
■平成 22 年度	『結崎ネブカ』が地域団体商標の登録を受ける 生産者 15 名 栽培面積 1ha